

# 平成25年度全国学力・学習状況調査結果について

H25.8.27 秋田県教育委員会

## 概 観

- 平成19年度以降、連続してたいへん良好な状況にあるという結果を得ることができた。これは、家庭・地域・学校・大学等がそれぞれの役割と責任の下で子どもを育てようとする、長年にわたって培われてきた本県の教育的風土によるとともに、これまでの「秋田の知恵と力」の総がかりで取り組んできた成果であると捉えている。
  - ・児童生徒の望ましい生活習慣・学習習慣  
「秋田わか杉っ子 学びの十か条」
  - ・各学校における一人一人へのきめ細かな指導と授業改善への取組  
「一人一人の学力を伸ばすあきたの学校～5つのエッセンス～」
  - ・家庭や地域の教育力と協力
  - ・大学との協力・連携
- 県教育委員会では、これまで6回の調査結果により、これまで歩んできた方向性や施策・事業等の有効性について一定の評価をしている。特に、少人数学習推進事業、県独自の学習状況調査、各学校ごとに実施している共同研究体制による授業研究等は、大きな効果があったと考えている。
- 個別にデータをみると課題もある。今後、検証改善委員会により、「昨年度までの課題の改善状況」「今年度の調査から明らかになった課題」等について詳細な分析を進め、各校における継続的な検証改善サイクルの確立に努めていきたい。
- 今後も、本県の財産である教育的風土を大切にし、教育をより一層充実させていくために、教育関係者はもとより、県民の皆様の御理解と御協力をいただき、オール秋田で「教育立県あきた」を目指して取り組んでいきたい。

## 調査結果の活用

- 本年度の学力調査は、平成21年度以来4年ぶりの悉皆調査であった。また、きめ細かい調査として経年変化分析調査、保護者に対する調査、教育委員会に対する調査なども行われた。県教育委員会では、インターネット上で自己採点結果の集計・分析をするためのシステムを構築し、提供している。既に、各学校においては自己採点を進め、自校の課題を明らかにしてその改善のために取り組んでいるところである。また、本調査を受けた学年の児童生徒に対しては、年度末までに課題となっている部分を確実に改善させた上で、進学・進級させることが大切であり、9月以降、改善のための方策を一層具体的にしておこなうことになる。
- 県教育委員会では、今回の結果とこれまでの結果を併せて、成果と課題を明確にし、調査の活用による指導改善・充実のための取組を進めていくことになる。特に、教育における検証改善サイクルについては、国と県の学力調査及び高校入試を一体として捉えたサイクルを確立し、推進している。具体的には、全国学力調査で課題を明確にし、県学習状況調査で課題の改善状況を把握していきたい。また、高校入試においても、「活用」に関する力が把握できるような問題を作成し、確かな学力を身に付けた児童生徒の育成に努めていく。

## 教科に関する調査の結果

### ◆ 概 要

- 本県の平均正答率は、小学校・中学校ともに全ての教科で全国平均を5ポイント以上上回っており、良好な状況である。
- 小学校・中学校の国語、算数・数学のほとんどの問題において、本県の平均正答率は全国平均を上回っている。
- 課題として取り組んできたB問題については、A問題よりも平均正答率で全国状況を大きく上回る傾向にある。知識・技能等の活用に重点を置いた授業改善が徐々に進んできていると判断できる。
- 正答数分布は、全国に比べ正答数の多い層が厚く、反対に正答数の少ない層は薄くなっている。
- 無解答率は、国語、算数・数学の全ての問題で全国平均を下回っている。小学校では9割以上の問題で、中学校では約7割の問題で、全国が無解答率の半分以下となっている。
- 全ての児童生徒に定着が求められ、正答率が十分でない問題については、早急に指導の改善を図り、一層の向上を目指す必要がある。

#### 小学校6年生平均正答率(%)

( ) は全国との差

教科	H25	H24	H22	H21	H20	H19
国語A(知識)	71.7 (+9.0)	86.9 (+5.3)	89.3 (+6.0)	75.3 (+5.4)	74.4 (+9.0)	86.1 (+4.4)
国語B(活用)	59.1 (+9.7)	63.0 (+7.4)	84.8 (+7.0)	60.4 (+9.9)	62.9 (+12.4)	69.0 (+7.0)
算数A(知識)	82.8 (+5.6)	79.5 (+6.2)	83.2 (+9.0)	86.2 (+7.5)	80.7 (+8.5)	88.4 (+6.3)
算数B(活用)	67.1 (+8.7)	64.0 (+5.1)	59.0 (+9.7)	63.7 (+8.9)	58.9 (+7.3)	68.6 (+5.0)
理 科		68.4 (+7.5)				

#### 中学校3年生平均正答率(%)

( ) は全国との差

教科	H25	H24	H22	H21	H20	H19
国語A(知識)	81.9 (+5.5)	79.7 (+4.6)	79.8 (+4.7)	82.3 (+5.3)	78.6 (+5.0)	85.4 (+3.8)
国語B(活用)	74.6 (+7.2)	70.3 (+7.0)	71.7 (+6.4)	81.8 (+7.3)	66.8 (+6.0)	77.0 (+5.0)
数学A(知識)	68.9 (+5.2)	67.4 (+5.3)	70.8 (+6.2)	68.8 (+6.1)	70.1 (+7.0)	77.5 (+5.6)
数学B(活用)	47.5 (+6.0)	56.7 (+7.4)	50.0 (+6.7)	63.4 (+6.5)	54.7 (+5.5)	65.3 (+4.7)
理 科		56.1 (+5.1)				

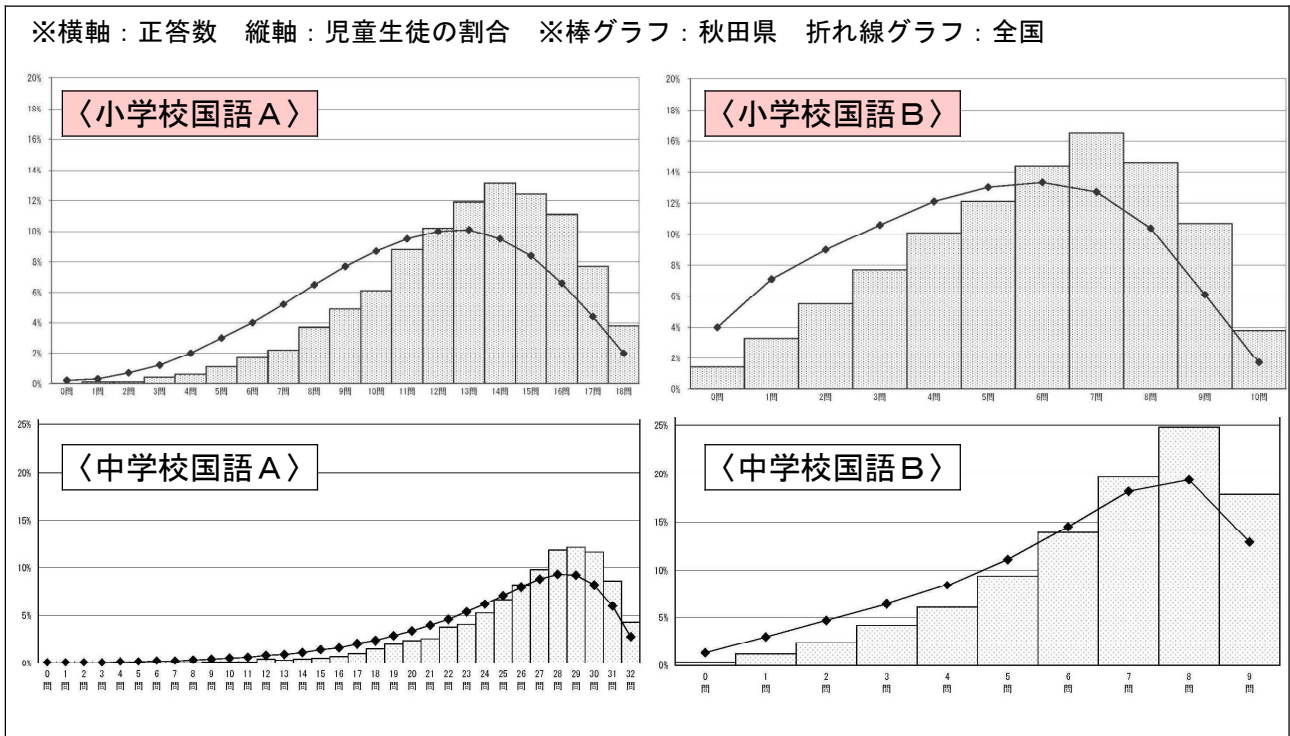
\* 平成24年度、平成22年度については、文部科学省から抽出調査における誤差も含めた「平均正答率の95%信頼区間」が公表されていますが、この表の数値はその区間の中央値を示しています。

## ◆ 正答数分布グラフ(正答した設問の数と児童生徒の割合を示したグラフ)

秋田県は全国よりも正答数の多い児童生徒の割合が多い。

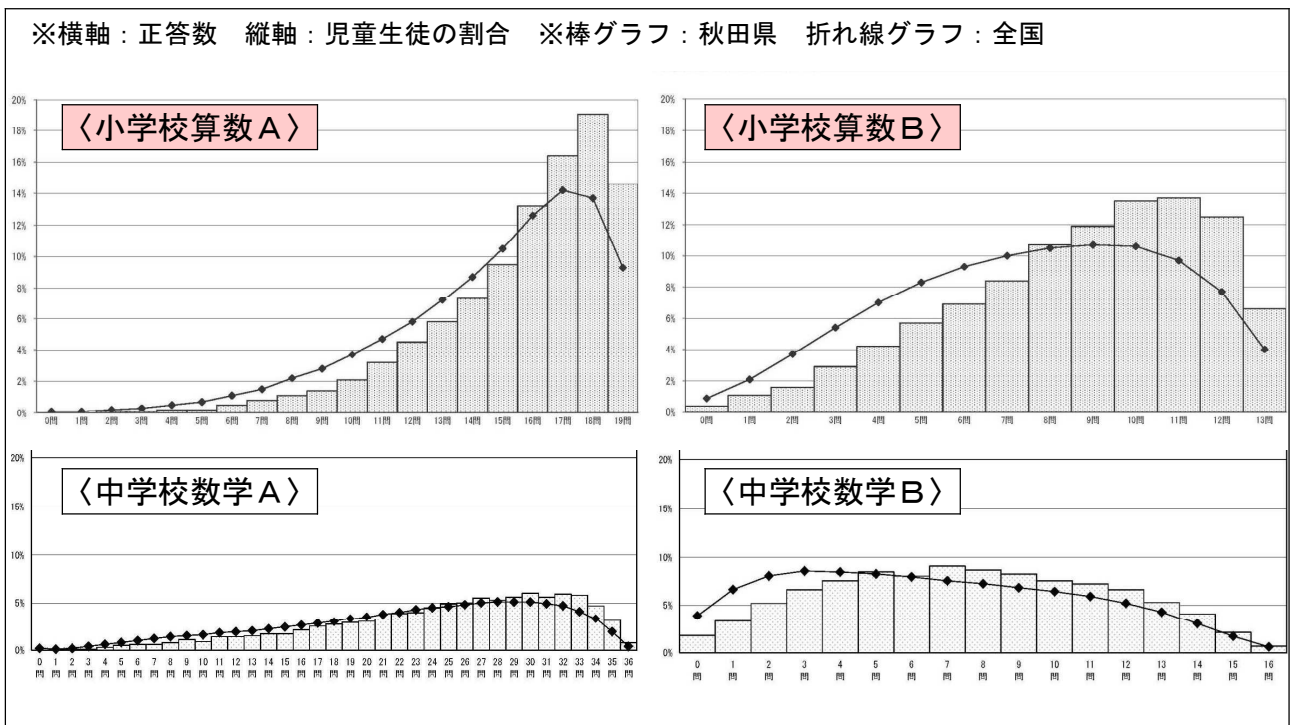
### 【国語】

※横軸：正答数 縦軸：児童生徒の割合 ※棒グラフ：秋田県 折れ線グラフ：全国



### 【算数・数学】

※横軸：正答数 縦軸：児童生徒の割合 ※棒グラフ：秋田県 折れ線グラフ：全国



## 各教科の成果と課題

### 【国語】

- 平均正答率では、A問題よりもB問題で全国平均を大きく上回っている。
- 平均正答率は、小学校では1問を除き、中学校ではすべての問題で、全国平均を上回っている。無解答率は、すべての問題で全国を下回っている。
- 小学校では「目的や意図に応じて必要な複数の事柄を整理して自分の考えを書くこと」「文と文のつながりを考えながら内容を分けること」に課題がある。
- 中学校では、同音異義語や比喻表現の理解、「文章の構成や表現を捉えて読むこと」に課題がある。

#### ●課題の例

	問題番号	平均正答率 (%)		設問の概要	出題の趣旨
		秋田県	全 国		
小 学 校	A 2 一	70.7	71.1	ことわざの意味として適切なものを選択する	ことわざの意味を理解する
	A 3 二 (1)	33.4	23.4	接続語を使って1文を2文に分けて書く	文と文のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分ける
	B 2 三	27.5	17.8	複数の内容を関連付けた上で、自分の考えを具体的に書く	目的や意図に応じ、複数の内容を関係付けながら自分の考えを具体的に書く
中 学 校	A 8 三ア	47.7	46.6	適切な語句を選択する（今年の夏の暑さには閉口した）	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う
	A 8 七 1	56.2	52.4	「かすみ」や「雲」のように見えたものを本文中から抜き出す	比喻を用いた表現について理解する
	B 3 一	66.3	61.0	新聞記事の書き方の特徴を説明したものとして適切なものを選択する	文章の構成や表現の特徴を捉えて読む

### 【算数・数学】

- 平均正答率では、A問題よりもB問題で全国平均を大きく上回っている。
- 平均正答率は、小学校ではすべての問題で、中学校では2問を除き、全国平均以上である。無解答率は、すべての問題で全国を下回っている。
- 算数では、二つの数量の関係の求め方と、それらの関係が比例の関係ではないことを記述することや、単位量当たりの大きさを求める除法の式の意味を理解することに課題がある。
- 数学では、事象を理想化・単純化して、事柄を数学的に捉え、他の事象との関係を考えることや、事象と式の対応を的確に捉え、事柄が成り立つ理由を説明すること、多角形の外角や関数の意味を理解することに課題がある。

#### ●課題の例

	問題番号	平均正答率 (%)		設問の概要	出題の趣旨
		秋田県	全 国		
小 学 校	A 4	53.9	50.0	AとBの2つのシートの組み合わせを比べる式の意味について、正しいものを選ぶ	単位量当たりの大きさを求める除法の式の意味を理解している
	B 2 (3)	44.4	35.2	示された実験の結果から、ふりこの長さや10往復する時間が比例の関係になっていないことを表の数値を基に書く	表から数値を適切に切り出して、二つの数量の関係が比例の関係ではないことを記述できる
	B 4 (1)	54.6	43.1	ワールドカップ後の1試合当たりの観客数がワールドカップ前の1試合当たりの観客数の約何倍になるのかを求める方法と答えを書く	単位量当たりの大きさなどに着目して、二つの数量の関係の求め方を記述できる
中 学 校	A 6 (2)	55.4	55.4	五角形のある頂点における外角の大きさを求める	多角形の外角の意味を理解している
	A 9	13.4	13.8	$y$ が $x$ の関数である事象を選ぶ	関数の意味を理解している
	B 3 (3)	26.2	26.9	水を熱した時間と水温の関係と同じように考えて求められる事象を選ぶ	事象を理想化・単純化して、事柄を数学的に捉え、他の事象との関係を考えることができる
	B 6 (3)	32.4 無解答率 27.7%	24.1 無解答率 43.2%	基石全部の個数を、 $3(n-2)+3$ という式で求めることができる理由を説明する	事象と式の対応を的確に捉え、事柄が成り立つ理由を説明することができる

## 児童生徒質問紙調査の結果

### ◆ 概 要

- 全体として、望ましい生活習慣及び学習習慣が定着していると考えられる。  
 ○授業の目標が示され、児童生徒が主体となる活動を取り入れた授業が展開されている。

本県の結果（％）と全国との差（「している」「どちらかといえばしている」など肯定的な回答）

	上回っている主な項目	小学校6年生		中学校3年生	
		秋田県	全国比	秋田県	全国比
生活習慣	普段（月～金曜日）、何時ごろに起きますか。	(7時より前に起きる) 93.6	+13.6	(7時より前に起きる) 88.4	+17.2
	普段（月～金曜日）、何時ごろに寝ますか。	(10時より前に寝る) 55.9	+ 8.8	(11時より前に寝る) 43.5	+ 9.6
	◎平成19年度から連続して90%以上を示している主な項目 ・朝食を毎日食べている。 ・毎日、同じくらいの時刻に起きている。 ・ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある。				
学習習慣	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。	(30分以上) 96.0	+ 8.3	(1時間以上) 77.2	+ 8.6
	家で自分で計画を立てて勉強していますか。	78.6	+19.7	58.5	+14.3
	家で学校の授業の復習をしていますか。	89.0	+37.6	82.5	+33.9
	家で苦手な教科の勉強をしていますか。	79.1	+28.0	71.4	+25.2
授業	普段の授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていると思いますか。	90.9	+ 9.4	91.0	+12.8
	普段の授業では、児童生徒の間で話し合う活動をよく行っていると思いますか。	89.8	+10.5	84.2	+19.5
	普段の授業では、はじめに授業の目標（めあて・ねらい）が示されていると思いますか。	95.3	+12.8	92.9	+24.8
	普段の授業では、最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていると思いますか。	90.4	+13.7	80.7	+29.4
	国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか。	77.8	+18.4	73.8	+21.6
	国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか。	71.3	+14.0	65.8	+18.7
	算数・数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか。	80.7	+14.5	49.4	+11.7
	算数・数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけ（根拠）を理解するようにしていますか。	89.6	+ 9.2	79.5	+ 9.5
	英語の学習は好きですか。	84.4	+ 8.2	60.8	+ 7.8
その他	将来の夢や目標をもっていますか。	92.6	+ 4.9	80.1	+ 6.6
	地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか。	72.7	+11.4	57.9	+13.3
	1か月に、何冊くらい本を読みますか。	(3冊以上) 59.5	+ 4.4	(3冊以上) 35.9	+ 8.5

## 学校質問紙調査の結果

### ◆ 概 要

- ほとんどの学校が一齐読書の時間を設定し、読書の習慣化に向けて取り組んでいる。
- 補充的な学習を行ったりチームティーチングを取り入れたりするなど、児童生徒の実態に応じたきめ細かな指導が進められるようにしている。
- 国語では目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を、算数・数学では実生活における事象との関連を図った授業を行った割合が、全国に比べて高い。
- 児童生徒の家庭学習の実施について、教職員の共通理解の下、組織的に取り組んでいる。
- 教科の指導内容や指導方法に関して、小・中の連携が行われている割合が、全国に比べて高い。
- 職場見学や職場体験活動について、中学校ではほとんどの学校で行われている。また、小学校の実施の割合は、全国を大きく上回る。

本県の結果（％）と全国との差（「よく行った」「どちらかといえばよく行った」など肯定的な回答）

上回っている主な項目		小学校 6 年生		中学校 3 年生	
		秋田県	全国比	秋田県	全国比
「朝読書」などの一齐読書の時間を設けましたか。		(週に1回以上) 97.4   + 6.8		(週に1回以上) 99.2   + 6.5	
授業で、補充的な学習の指導を行いましたか。	国 語	76.2	+ 8.4	86.9	+13.5
	算数・数学	92.5	+ 5.2	96.7	+10.7
算数・数学の授業において、前年度にチームティーチングによる指導を行いましたか。		74.0	+15.5	83.6	+34.0
国語の授業で、目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行いましたか。		93.0	+ 5.1	91.8	+11.8
算数・数学の授業で、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか。		74.1	+11.1	70.5	+13.3
教科の指導として、家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図っていますか。	国 語	97.8	+10.1	87.7	+ 9.6
	算数・数学	97.8	+10.1	89.3	+10.9
教科の指導内容や指導方法について、小中連携（教師の合同研修や交流、教育課程の接続）を行っていますか。		81.5	+12.3	87.7	+18.2
職場見学や職場体験活動を行っていますか。		69.6	+27.7	99.2	+ 0.8

## 全国学力・学習状況調査の活用

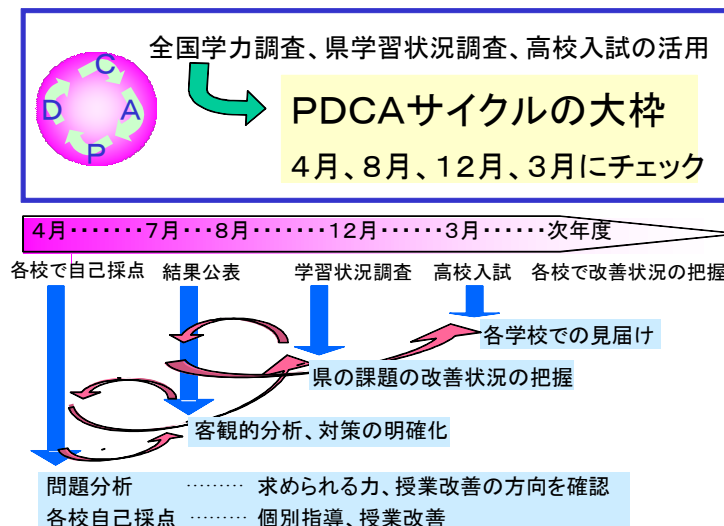
### ◆ 概 要

- 自校の教育指導の改善に向けて、ほとんどの学校が、平成24年度全国学力・学習状況調査の問題冊子や県の学習状況調査結果の分析を活用している。
- 保護者や地域の人たちに対して、調査結果について公表や説明をしたり、学力向上の取組について働きかけを行ったりしている割合が、全国に比べて高い。

### ◎学校質問紙調査結果（％）より（「はい」と回答した割合）

質 問 項 目	小 学 校		中 学 校	
	秋田県	全国比	秋田県	全国比
平成24年度全国学力・学習状況調査の問題冊子等や地方公共団体における独自の調査等の結果を利用し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行いましたか。	97.8	+ 5.7	99.2	+10.5
平成24年度全国学力・学習状況調査の問題冊子等や地方公共団体における独自の調査等の結果を、調査対象学年・教科だけでなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか。	96.9	+ 8.2	96.7	+11.8
平成24年度全国学力・学習状況調査の問題冊子等や地方公共団体における独自の調査等の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明をしましたか。	92.5	+19.4	88.5	+19.9
平成24年度全国学力・学習状況調査の問題冊子等や地方公共団体における独自の調査等の結果や学校評価の自校の結果等を踏まえた学力向上のための取組について、保護者や地域の人たちに対して働きかけを行いましたか。	91.6	+12.7	82.8	+11.5

- 県教育委員会は、調査を有効に活用し、全国学力・学習状況調査、県学習状況調査及び高校入試を一体として捉えた検証改善サイクルの確立を推進し、確かな学力を身に付けた児童生徒の育成に努めていきます。



## 県教育委員会の取組について

### ☆ 学力向上関連事業等

#### ◆ これまでの事業等

- 少人数学習推進事業（少人数学級、少人数授業）（H13～）
- 学習状況調査事業（H14～）
- 算数・数学学力向上推進事業（H17～22）
- 教育専門監の配置（H17～、義務教育はH18～）
- 科学する心を育む夢プラン事業（H12～20）
- 「英語とコンピュータが使える秋田の子ども」育成事業（H16～18）
- 学校・大学パートナーシップ事業（H17～19）
- 夢創造！！チャレンジ推進事業（H20、21）
- 読解力向上のための指針の作成（H20～24）
- 秋田わか杉っ子 学びの十か条（H20～）
- 「わか杉思考コンテスト」の実施（H20～22）
- 先端科学体験事業（H21）
- チェンジ秋田・教育プロジェクト事業（あきた教育GP）（H21）
- 小学校まなび・ふれあい充実事業（H21～23）
- 小学校外国語活動教員研修事業（H21～25）
- 学力向上推進事業（H23～）
- 「問い」を発する子ども”の育成のための指針の作成（H24～）

#### ◆今年度の事業等

- 少人数学習推進事業
  - ・少人数学級を中学校第2学年まで拡充（H24に小学校第4学年まで拡充）
- 小・中連携いきいきスクール事業
  - ・小規模小学校（6、7学級程度）へ臨時講師を1名配置することにより「教科担任制を生かした教育課程の編成」や「中学校入門期における小学校教員の乗り入れ授業（TT）」を可能とする
- 学力向上推進事業
  - (1)学習状況調査事業
  - (2)あきたの教育力充実事業
    - ①理数学力向上推進事業
      - ・学校訪問指導
      - ・学力向上支援Webサイト活用
      - ・観察・実験指導力向上講座（教員対象）
      - ・理数探究体験セミナー（児童生徒対象 平成25年8月8日～10日）
      - ・科学の甲子園ジュニア秋田県大会（平成25年10月20日）
    - ②あきたの教育力発信事業
      - ・検証改善委員会による全国学力・学習状況調査の分析・提言
      - ・学力向上フォーラムの開催（平成25年10月12日 湯沢市）
    - ③キャリア教育推進事業
      - ・キャリア教育研修会の開催（平成25年11月1日）
      - ・キャリア教育推進協議会の実施
- あきた発！英語コミュニケーション能力育成事業
  - ・小・中・高の連携により、英語によるコミュニケーション能力を身に付けた子どもの育成を目指す
  - ・国際教養大学との連携等による教員研修を実施して、小学校における外国語活動の充実を図る